

## MCR 学級 防災講座報告

### 1 目的

- ・MCR 学級生が家庭の状況に応じて防災意識が高められる。
- ・MCR 学級生の学びの場を広げる一助とする。

### 2 日時・場所・参加人数

1月22日（月）10：00～12：00 アートスポットまつど  
当日参加者 38名 一時預かり利用者2名

### 3 内容

#### (1) 開会

#### (2) 講演

講演会 10：00～11：40

演題 「災害を生き抜く衣食住」

講師 防災士

田中 麻由美

#### (3) 質疑応答

#### (4) 閉会

### 4 概要

小学校家庭教育学級・MCR 学級生38名参加のもと女性目線での防災・減災と在宅避難を加味して開催されました。

元旦早々に起こった石川県能登半島地震は、激甚災害と指定され、多くの方々が犠牲になりました。今尚、多くの方々が避難生活を余儀なくされています。その様な状況が今実際に起こっているという現状を踏まえ、多くの学級生の関心が高まる講座となりました。

「防災リュックに何をいれる?」「大地震の時と台風や大雨の時での準備の違いは?」等々人によってリュックに入れる物が違うということや災害の状況によって準備が異なる点について説明され、普段からくらしの変化に合わせて定期的に点検することの必要性等々について言及されました。とりわけ関心が高かった「災害時の食とトイレ」の内容に及ぶと、当事者になっての意識が高まりました。「大きな地震が起きたらトイレの水は流せません」「災害が起これば、トイレも被災する。トイレがなければ、生きていけない。安心できるトイレが健康を守る」は、強烈なインパクトを与える被災の現状でした。災害に対する危機意識が高まり、自他の命を守る重さを感じたようでした。休憩時間でも、講師の方が準備された災害時に役立つグッズの展示を見たり、簡易トイレについての情報を共有したりしていました。

質疑応答時でも避難所生活で実際に起こるべく課題について踏み込んで伺っていました。

### 5 参加者の主な感想

- ・能登の地震より、すぐに避難所が開設できても物資が届かなかったり、避難所以外に避難している人がいて、情報が届かなかったりする様子が報道され、自分たちの備蓄や備えが大切だとつくづく思いました。特に「季節に合わせて、見直すことが必要なこと」「食料は普段食べているものにする（災害用に特別に用意すると食べられないこともある）」「トイレ対策の大切さ」について聞いて良かったと思いました。具体的な事例も多くお話が分かり易かったです。
- ・災害時の備蓄や防災リュックに入れた方が良い物を考えることができました。10個に絞るのは難しく、とても悩んでしまいました。トイレや備蓄（食品）について、精神面での安心について聞いて良かったです。最近震災があったばかりなので自宅でも用意して備えたいです。

